

平成24年度児童生徒体力・運動能力調査の結果について

スポーツ課

1 調査の目的

県下児童生徒の体力及び生活の実態を把握し、今後の体育指導の改善及び基礎体力養成の資料とする。
(長野県では昭和42年から実施)

2 調査対象校および人数

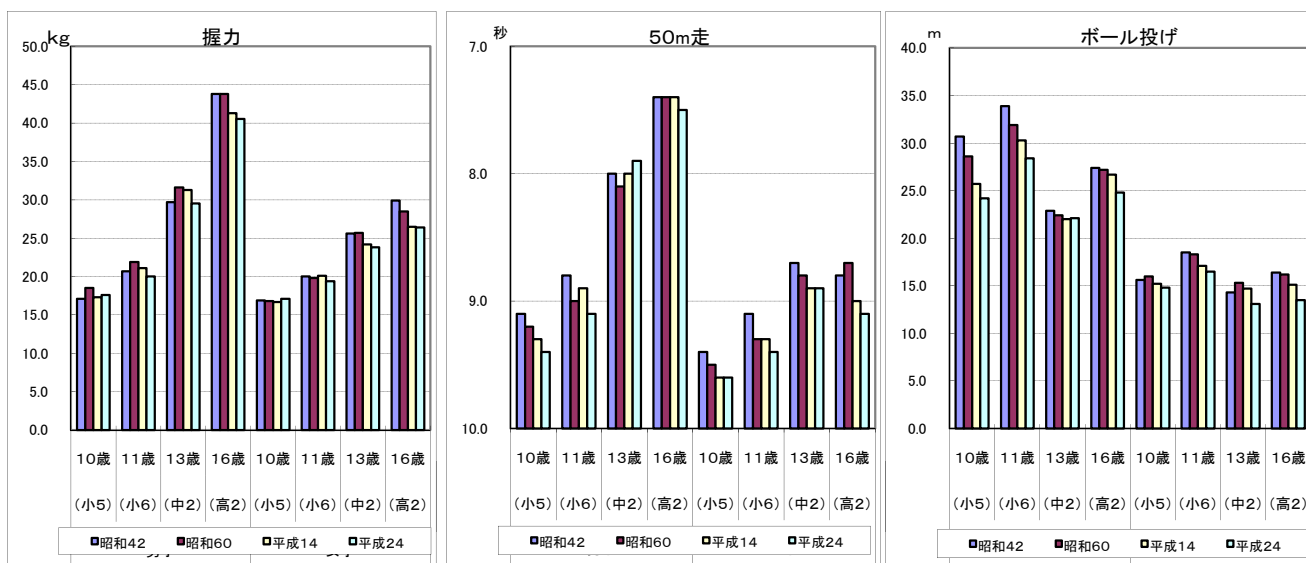
小学校	60校	19,007名
中学校	40校	10,975名
高等学校	12校	5,756名
		35,738名

調査期間 平成24年5月～10月

3 体力・運動能力の推移

(1) 昭和42年度、昭和60年度、平成14年度、平成24年度の比較

(比較可能な握力、50m走、ボール投げの3種目のみ)

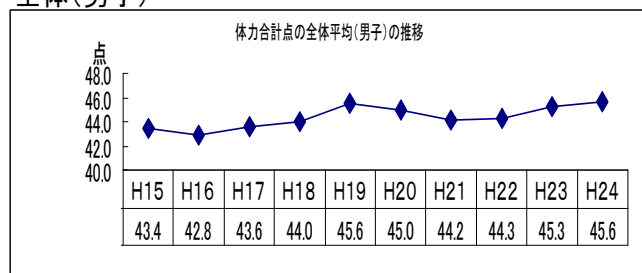


○ 握力の10歳女子と50mの13歳女子以外は全て平成24年度が最低を記録している。

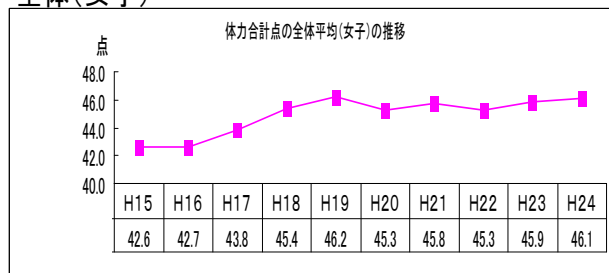
(2) 体力合計点の10年間の推移 (握力、50m走、ボール投げに加え、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびを点数化して合計)

① 全体 (小学校1年生から高等学校3年まで) の体力合計点平均

全体(男子)

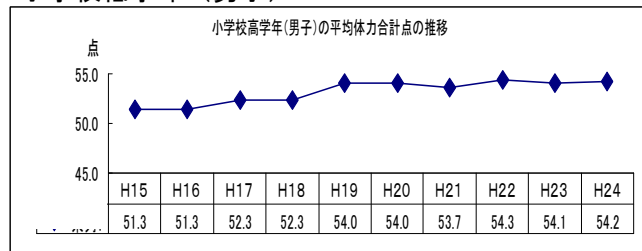


全体(女子)

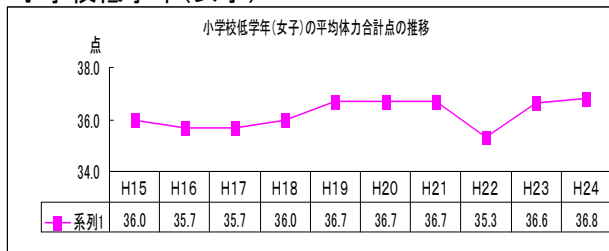


② 校種別体力合計点平均

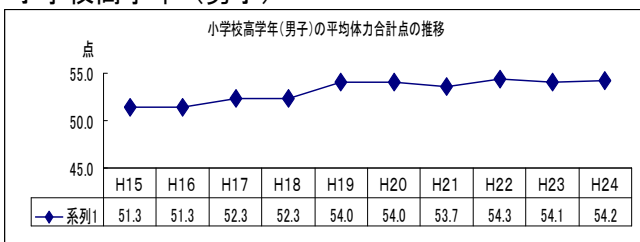
小学校低学年 (男子)



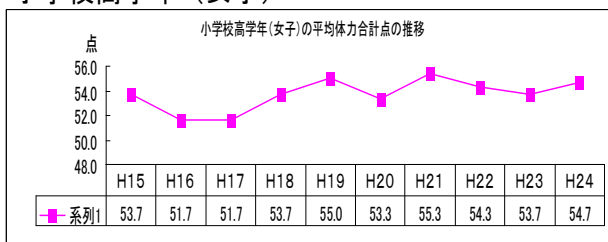
小学校低学年(女子)



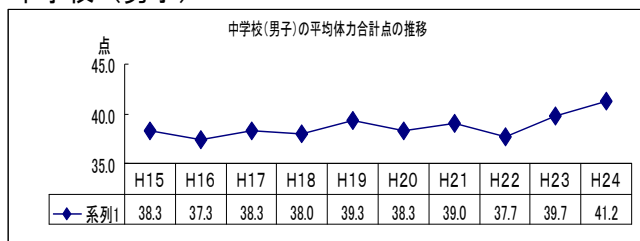
小学校高学年（男子）



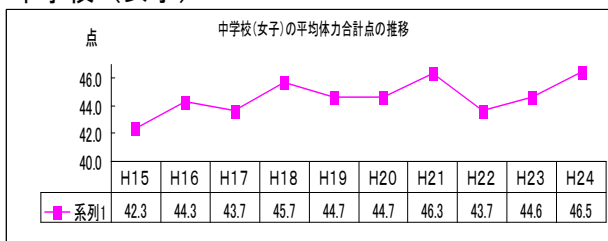
小学校高学年（女子）



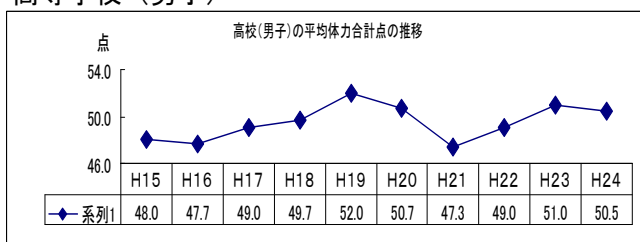
中学校（男子）



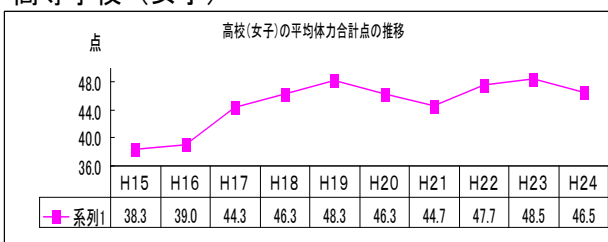
中学校（女子）



高等学校（男子）



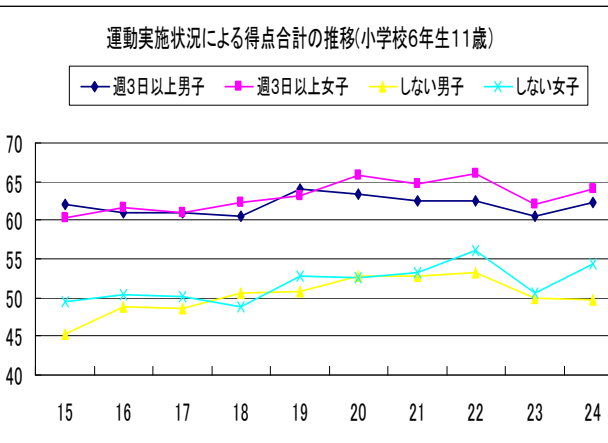
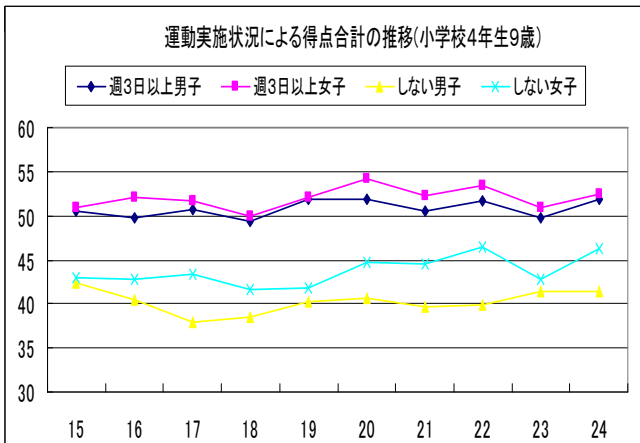
高等学校（女子）



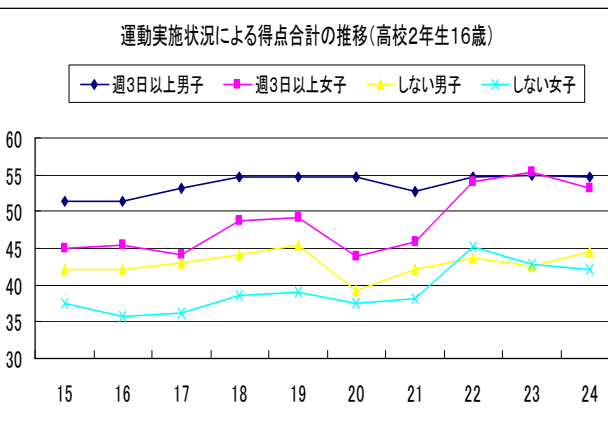
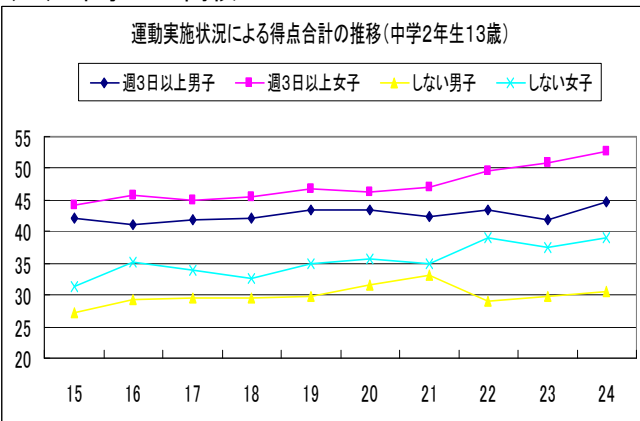
○ 全体では若干の上向き傾向にある。平成24年度において前年度と比較すると高等学校（男子・女子）は上昇している。小学校低学年（女子）、小学校高学年（男子・女子）、中学校（男子・女子）は10年体力合計点が最も高くなった。

4 運動実施状況による体力合計点の推移（平成14年度～24年度）

(1) 小学生



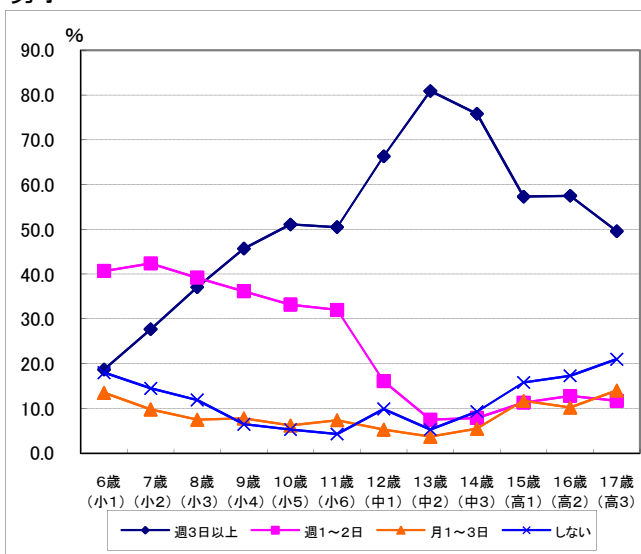
(2) 中学生・高校生



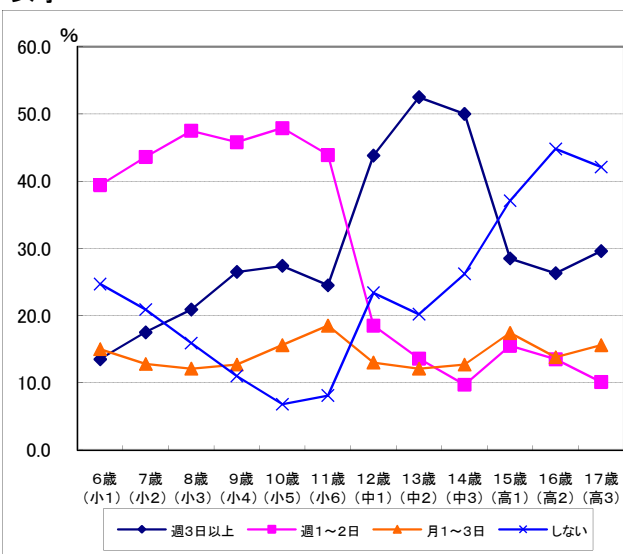
○ 「週3日以上」運動すると回答した児童・生徒は、「しない」と回答した児童より体力合計点が高い。中学2年生はその差が高くなる傾向がある。

5 学年進行に伴う運動の実施状況の変化（平成24年度）

男子



女子



- 「週3日以上」運動をすると回答した児童・生徒の割合は、小学校高学年でいったん横ばいとなるが、中学に入り増加傾向を示し、中学2年生をピークに減少傾向に転ずる。
- 「しない」と回答した児童・生徒の割合は、小学校5～6年生から学年が進むごとに増加し、特に女子が著しい増加を見せ、高校生では4割以上に達する。

(参考)

児童生徒の体力の低下の要因としては、以下のことにより運動する機会が減少していることが考えられる。

- 学校外の学習活動や室内遊び時間の増加による、外遊びやスポーツ活動時間の減少
- ゲーム機やテレビなどの室内遊びの増加
- 習い事などによる子どもの多忙
- 空き地や生活道路といった遊び場の減少、少子化による遊び相手の減少
- 睡眠時間や生活習慣、食生活の乱れ
- 交通・電化製品の発達による利便性の向上